



現在の大田原小学校の木造校舎

鈴木 央 議員
大田原小学校の校舎建替について

質問(鈴木央議員) 大田原小学校校舎の建替えのスケジュール、建替えの内容、建替えを行わない建物の取り扱いについて伺います。

答弁(教育部長) 初めに、スケジュールについては、今年度は大田原小学校建設検討委員会を設置し、基本計画を策定していきま

次に、建替えの内容については、建替える校舎は昭和10年11月に建設された木造2階建てで築後78年を経過している校舎を取り壊し、新たに3階建ての鉄筋コンクリート造で建設し、内装は木質化を考えています。その他の詳細については、建設検討委員会の委員から意見をいただきながら決定していきたくと考えています。なお、隣接した給食室についても、あわせて改築を予定しています。

最後に、建替えを行わない建物については、昭和35年11月に建築された鉄筋コンクリート造3階建ての教室棟と昭和36年2月に建築された鉄筋コンクリート造2階建ての管理棟です。両棟とも築後53年を経過していますが、平成21年度に耐震補強工事を実施しており、建物の耐震化においては基準を満たしています。しかし、外壁窓及び天井などの非構造部材については耐震化されていないため、検討委員会の意見を参考に改修の判断をしていきたくと考えています。

井上 泰弘 議員
黒羽地区の公共施設の活用について

質問(井上泰弘議員) 旧黒羽川西地区公民館、黒羽川西地区公民館公会堂、山村開発センターのそれぞれの活用について伺います。

答弁(市長) 旧黒羽川西地区公民館は昭和43年に建築され、老朽化や東日本大震災で被害を受けたことから、隣接する黒羽川西地区公民館公会堂の利用者及び地域の住民の方々の安全確保のため解体を決定し、今議会定例会で解体に係る費用を補正予算とし

て計上しました。今年度中に建物を解体し、跡地は公会堂利用者の方の駐車場として整備する予定です。

黒羽川西地区公民館公会堂は、昭和35年に建築された鉄筋コンクリート造の建物で、ステージ部分のカーテンや暗幕などは傷みが進んでいます。しかし、現在でも国際医療福祉大学のダンス部や黒羽地区のエアロビクス愛好会などが年間を通して定期的に利用しており、昨年度は、延べ1

995人の利用がありました。今後も必要に応じて老朽箇所の修繕を行いながら使用していきたくと考えています。

山村開発センターは東日本大震災で大きな被害を受けたため、当初は解体を考えていましたが、周辺の黒羽城址公園等と併せて住民が集う施設として存続させたいほうがよいと考え、本年7月に耐震診断業務委託を行いました。

診断結果をもとに耐震補強計画を策定し、耐震補強、補修工事を行い、一部に展示スペース等を設け、山村開発センターとしての機能を継続させながら管理運営していくことを考えています。



存続となった山村開発センター